北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9638

編　集　後　記 ― 新教職大学院から修了生にむけて

本教職大学院は、この春で開設から丸14年が経とうとしている。大学院がスタートしてから３年目の2010年４月に、発行に向けて研究紀要編集委員会が始動した。毎号、特集を組み、原稿を募集してきたが、その特集のテーマはその時々の状況を踏まえながらも本院の歩みや課題を反映させるべく考えられてきた。

本号の特集タイトルは、「新教職大学院における実践報告―理論と実践の往還から―」である。開設当時とは大きく異なるカリキュラム・運営体制になったことを受けて、「新」という一文字が付されている。

従来、月曜夜から木曜夜と土曜昼間に１講義２コマ続きで行われてきた双方向の講義（４キャンパスあわせて行う講義）は、細分化・再構成されて１講義１コマずつとなった。教科教育関係等を中心とした修学校開講（所属キャンパスのみで開講）の講義が教科や特別支援の数だけ多数新設され、あわせて担当教員は大幅に増員された。

いままで、教職大学院の教員会議は全員が双方向のシステムで一同に会してきたが、今年度から「代表者会議」という名称で、一部の教員による会議となった。すべての教職大学院の構成員に会議資料が正式に配信されるのは、各校（４キャンパス）における教員会議開催時まで待たねばならなくなった。各委員会業務もまた、従来のやり方をリニューアルせねばならない場面に多々遭遇してきた。本委員会も例外ではない。一つ一つ、かぎられた時間ではあるが、手数をかけて慎重に協議しながら進められてきた。至らぬところは多々あったかと思われる。その点については、この場をお借りしてお詫び申し上げたい。

おかげさまで、すでに特集論文よりも自由投稿論文の本数の方がはるかに上回るようになり、投稿数も安定してきた。このような慣れない新システムでの多忙な日々においてではあるが、特集・自由投稿ともに原稿を寄せていただいた教員の皆様に、この場をお借りして心より感謝する。

ところで、教職大学院における教師の学びは、MOB（マイ・オリジナル・ブック）や実践論文（2021年度入学生より）を書いて修了してそれで終わり、ではない。教育実践は継続・発展されていくものだ。特に、教育政策として多くのキーワードが乱立され続けている昨今、苦悩しながら日々懸命に教育実践に向き合う教師たちを見るにつけ、巣立っていった修了生がその後、どのような研究的実践を、どのように継続・展開し続けているのか、気にかけながら教職大学院担当教職員たちは過ごしている。

前号の編集後記でもふれたが、もし、本紀要が修了生の研究的実践の報告・交流の場として存在し続けることができれば、編集委員としてこれ以上の幸せはない（苦労となることも、もちろんあるが）。その報告・交流の場を提供し続けることは、真の「学び続ける教師」を支える教職大学院の重要な一側面だと、研究紀要編集委員会一同は自覚・自認している。

おかげさまで、修了生からの投稿は少しずつ増えてきている。継続的に研究会報告をしてくれている人たちに加え、本号では初めて投稿してくれた人もいる。今回、エントリーや入稿期日に間に合わなかった人は、またのチャレンジをお待ちしている。紀要投稿にチャレンジしたい修了生は、指導教員等に相談してほしい。

2021年度　研究紀要編集委員会
安井　智恵　稲葉　浩一　杉本　任士
文責　前田　輪音